

ブドウのべと病・黒とう病及び モモせん孔細菌病の発生に注意しましょう！

令和6年5月27日
農業技術課

台風1号が接近しています。また、その後も連日曇雨天が続く予報ですので、各種病害の発生が予想されます。

下記の留意点に注意して防除を行ってください。

ブドウ べと病

- ◎ 発病した房や葉を見つけたら、すぐに切り取って園外に持ち出す。
- ◎ 感染から発病まで7～10日と短いので、防除暦に準じて散布間隔が10日以内になるように予防散布を徹底する。
- ◎ 低温が続き生育が遅れる場合は、防除暦の生育ステージに合わせて散布間隔があくため、前回の散布からの日数を優先して、散布する。
- ◎ 散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず、降雨前に散布する。
- ◎ 散布後の連続的な降雨や強い雨により、薬剤の効果が低下した場合には、散布間隔を短くする。
- ◎ 追加散布の必要がある場合は、年間使用回数、収穫前日数、周辺の作物に留意する。
- ◎ 農薬散布時に雨や夜露により葉が濡れているときは、SSの送風ファンなどで露を払ってから散布を行う。

ブドウ 黒とう病

- ◎ 定期的に園内を見回り、病斑が見られる葉や新梢、果実、巻きひげは見つけ次第取り除き、園外に持ち出し処分する。
- ◎ 本病は柔らかい部位に多く発生するため、副梢や新梢先端、果房等の発生が多い。また、発病している部位の周囲に感染が広がっていることが多いため、発生部位の周辺は十分に観察する。
- ◎ 病原菌は降雨により伝染する。このため、散布予定日に降雨が予想される場合でも、散布を延期せず、降雨前に散布する。(降雨後では既に感染してしまう恐れがある。)
- ◎ 薬剤散布を行う際は、散布ムラのないよう十分量を丁寧に散布する。特に園の周囲やSSの死角など薬剤がかかりにくい場所は補助散布を行う。
- ◎ 薬液がよく付着するよう、新梢管理を徹底し棚面を明るく風通しの良い状態に保つ。

モモせん孔細菌病

- ◎ 罹病枝、発病葉や発病した幼果が伝染源となるため、これを残したままで強い風や雨が続きと感染が拡大するおそれがある。摘果・袋掛け作業とあわせて、発病部位のせん除などの耕種的防除を行うとともに、薬剤防除を継続して徹底する。
- ◎ 春型枝病斑は見つけ次第せん除するとともに、病斑のある幼果は摘果し、ほ場外に持ち出すか土中に埋めて処分する。葉や幼果への発病がスポット的に見られる場合は、付近の枝に春型枝病斑があるので、必ず見つけて枝ごとせん除する。特に、樹冠上部に残すと降雨により樹全体に感染が拡大するため注意する。
- ◎ 使用する薬剤の使用回数、収穫前日数に注意しながら定期的（7～10日間隔）に薬剤散布を行う。
- ◎せん孔細菌病の果実での潜伏期間は、5月頃では2～3週間、6月頃では40日程度あるとされ、春型枝病斑や発病葉が見られる園では、幼果に病斑がない場合でも感染しているおそれがある。今後も継続して発病状況を観察し、袋かけ前に、前回の散布から間隔があき、降雨が予想される場合は、降雨前に追加散布を行う。
- ◎モモせん孔細菌病防除マニュアルを参考にしてください。

<https://www.pref.yamanashi.jp/documents/6804/r2sennkoumanyuaru.pdf>

また、その他の病害虫の発生状況や防除方法については、病害虫防除所のHPを参考にしてください。

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/index.html>